KUFC

神奈川大学フロンティアクラブ会報
発　行　日　2012年２月10日
編集・発行　神奈川大学フロンティアクラブ
組織・広報専門委員会
事務局　神奈川大学　総務部校友課内
〒221-8686 横浜市神奈川区六角橋3-27-1
TEL.045-481-5661㈹
FAX.045-481-2741
第 17 号

フロンティアサロン活動紹介

第60回「神奈川大学産学交流フロンティアサロン」（平成23年10月26日開催）

テーマ：「期待される医療・介護（福祉）ビジネスを展望する」

講師：パラマウントベッド株式会社取締役技術本部長　**坂本郁夫氏**（昭52工経卒）

《講演要旨と会社概要》

産官学共同専門委員会委員長　**小　渕　昌　夫**（昭42年Ⅱ貿易）

講演する坂本郁夫氏

企業を取巻く外部環境が大きく変化、特に少子高齢化が進む中で、介護関連事業の拡大で順調に業績を伸ばし、頻繁にマスコミに登場しているのが、パラマウントベッドである。現在、この成長の要である技術本部を担当しているのが、神奈川大学工業経営学科卒の坂本郁夫氏で、坂本本部長は卒業と同時に、この会社の前身である木村寝台工業に入社した。入社後地道な努力を重ねて成功を収め、広島、横浜各支店長を歴任、その後、営業を総括する営業本部長、そして取締役へと昇進し経営の一翼を担ってきた。十年余り営業分門を担当した後、二〇〇九年に技術本部長に就任、現在は、関連会社を統括するパラマウントベッドホールディングス株式会社の取締役でもある。会社概況は、東京証券取引所の市場一部上場、（以下連結で）資本金約四〇億円、売上高五八〇億円、従業員約一九〇〇人である。

坂本本部長の講演内容は、企業の経営理念の他、福祉製品開発のポイント、製品と技術に関する安心と安全のあり方、看護と介護労力の軽減に関する配慮、製品と技術に対する「やさしさ」の配慮、患者さんの身体状況の把握等が語られた。最後に、開発の真髄である商品開発の進め方、今後の方向性、さらに、CSR（企業の社会的責任）を念頭にマーケティング戦略を推進し、独創的な開発商品を通して日本の基幹産業の一角を築いて行きたいとの大いなる夢を語って頂いた。今回の講演は、坂本本部長が神奈川大学卒業後に歩んだ経験、環境変化における介護関連ビジネスの現況と展望や独創的な商品開発を中核とする企業変革のプロセスを学び、更に、参加された会員や一般の方々がこれから直面する自らの為にも参考になった。特に、この講演を通して、会員の研究成果や業績を学び、講演終了後に開催される恒例の「サロン懇親会」では、軽く一献交えて心が通う楽しい一時の語り合いがある。この語り合いを通して、会員や一般参加者との相互のビジネスへ発展すれば望外の喜びである。会員の皆さん、是非一度参加し感触を確かめて下さい。

第60回「神奈川大学産学交流フロンティアサロン」の様子

平成24年度 神奈川大学フロンティアクラブ総会

開催日時：平成24年2月26日（日）午後2時から
開催場所：ホテルキャメロットジャパン
（横浜駅西口徒歩5分）

―当日のスケジュール―

【総　　会】午後2時00分（4階フェアウィンドⅢ）
- 平成23年度事業報告および決算
- 平成24年度事業計画および予算（案）
- 役員の改選について
- その他

【大学の現況について】午後2時45分（4階フェアウィンドⅢ）
理事長　伊　藤　文　保
学　長　中　島　三千男

【講　演　会】午後3時30分（4階フェアウィンドⅢ）
講演テーマ「知って得する認知症予防」
- 普通の物忘れと認知症の物忘れの違いはなに？
- 物忘れが気になるひと、まだ考えてないひと、身近にいるひとのために！

講　師　川　名　明　徳　氏（昭47貿易卒）

【懇　親　会】午後5時00分（4階フェアウィンドⅡ）

平成24年2月26日フロンティアクラブ総会開催

講演会　演題「知って得する認知症予防」

講師　**川　名　明　徳　氏**（昭47貿易卒）

バブルがはじけ「失われた二十年」とさけばれて久しい。少子高齢化に伴う人口減少、リーマンショック、東日本大震災、それに伴う原発事故発生と先の見通しが読めない混迷した社会。大戦からの復興、高度成長を支えてきた私たちもそれなりの年齢を迎えようとしています。物忘れが気になるが認知症なんてまだまだと考えている人、なりたくない人、知り合いや家族に認知症の人がいる人など、さまざまですが私たちが明るく、楽しい生活をする為にどのように予防すべきか、対処すべきか知る機会を今回設けました。講師はフロンティアクラブメンバーでもある川名明徳氏に「知って得する認知症予防」との演題でお話してもらいます。

講師川名氏は昭和四十七年貿易科を卒業され、某大手薬品会社に就職しました。その後退職、独協医科大に進学、医師国家資格を取得され、現在、鶴見駅西口にて「メイトクリニック鶴見」院長として日々患者さんと接しられている医学博士です。大学の研究者と患者さんと接している開業医の両面からお話が聞けると思います。気になる認知症について少しでも認識できたらと思います。

講師プロフィール

川名明徳（カワナ　アキノリ）
（宮崎県出身六十二歳）

S47年3月	神奈川大学卒業
S47年4月	第一製薬株式会社入社
S51年3月	同社退職
S52年4月	独協医科大学入学
S58年3月	同大学卒業
S58年5月	医師免許証取得
S58年6月	東邦大学医学部精神医学講座入局
H14年6月	同局退局（退職時　講師）
H14年7月	メイトクリニック鶴見開業

趣味・特技…旅行、ドライブ

平成23年度総会の様子

第64回神奈川大学産学交流フロンティアサロン（平成24年1月18日開催）

「激動の水産業界で過ごした私の人生。」

―歴史的考察とその経営。日本人は、本当に魚食民族か？―

講師　實方誠一（昭48工経卒）

講演要旨

水産流通の歴史的変遷を「日本の水産物供給推移と現状、消費推移と現状」「歴史的節目、変化」「今後の水産流通の行方」加えて食の縄文時代からの食の変遷に「日本人は本当に魚食民族」かを検証した講演内容。

供給推移では、戦後国内生産は、遠洋漁業、沖合漁業を主体に昭和五十九年一、二八二万トンをピークとなり、平成二十一年に五四三万トンまで落ち込み更に資源の枯渇化、漁業者の減少高齢化など、また輸入数量は、国際的需要も高まり価格高騰し買い負けし年々減少、水産加工業の空洞化もあり、今後も供給は減少の一途をたどる状況にあるという。

魚の消費についも資料をもとに検証。「食べない人」が年代、年齢で確実に増え平成十八年には国民の摂取量が肉に逆転さらに社会構造の変化によって魚需要が減るだろうと予測。

需要の節目に「二〇〇海里専管水域時代」「官官接待の禁止」「産地表示、賞味期限表示」「リーマンショック」などを上げ、今後の消費税値上げがさらに節目になる状況の説明。

そのような激動の水産流通業の経営に携わり、親会社では専務、グループ会社社長二回の経歴において、何を考え、何をしたのか、何をしようとしたのか反省を含めての話。

今後の水産流通の行方では、様々な検証から六段階流通が二段階三段階流通が加速し、流通の淘汰圧縮が進み、業態対応の中間流通が、生産者メーカーとユーザーを結ぶ物流兼業として残って行くだろうとしている。

水産市場では、拠点市場以外では、中央市場・地方市場でも淘汰減少が進み、市場の中で「大きい卸、小さい卸、中程度の卸」になり、買い手市場の今日、特色をどう持てるかにあるという。

日本人は本当に魚食民族か？は、縄文時代からの「食の歴史」を展開、魚を量的に食べるようになったのは、昭和四十年代からの四十～五十年の話で、今後十年もすればデータ的に相当な落ち込みをするだろう。日本人は歴史的に新し物好き、食に対して順応性も高く、社会の変化で魚は「食べない、食べられない」時代となる。

様々検証した結果、魚食民族というのは、「一時的」なもので実は、「雑食民族」ではないかと思って行きたいとした。

第20回全日本大学女子サッカー選手権大会

女子サッカー部　念願の全国制覇

神奈川大学女子サッカー部は平成二十四年一月五日、東京・国立競技場で行われた決勝で日本体育大学と対戦し、1―1で引き分け、大会規約により両校優勝となり初の栄冠を手にした。

［写真提供：神奈川県サッカー協会］

産学交流フロンティアサロンのご案内

第65回　平成24年3月21日（水）

（仮題）「製造企業の国際比較、日本企業の国際展開、ハイブリッド経営」

経営学部　榊原　貞雄　教授

第66回　平成24年5月16日（水）

（仮題）「法律を見方にすれば、仕事も生活も安全です。」

ＳＫＹ総合法律事務所３弁護士によるトークショウー

ＳＫＹ総合法律事務所
弁護士　新開　崇弘　氏（平18法務卒）
川村　宜禎　氏（平18法務卒）
横山　　朗　氏（平18法務卒）

第67回7月18日（水）、第68回9月19日（水）、第69回（日程未定）講師折衝中

「村橋・フロンティア奨学金」へご協力ください

日頃は「村橋・フロンティア奨学金」へご協力いただき誠に有り難うございます。

この奨学金は、当クラブの会員であった故村橋三好氏の寄付金により創設され、当クラブはその運営を支援してまいりました。具体的な支援活動としては、会員の皆様からのご寄付をもって、毎年の奨学金の給付合計額（現在四百万円。奨学生一人当り四十万円を十人に給付）の一部に充てるための寄付をしております。平成二十三年度は一、二二〇、〇〇〇円の寄付をいたしました。

被災学生に「特別奨学金」給付

さらに、平成二十三年度には新しい活動を加えることといたしました。

東日本大震災により多数の学生が被災し、多くの学生が経済的困難に直面している実情にありますので、当クラブにおいてもこれら学生を支援するため、「村橋・フロンティア奨学金」に被災学生を対象とした「特別枠」を新たに設け、五人の学生に「特別奨学金」を給付することとしました。平成二十四年度に募集し、給付を行うこととしております。

この「特別奨学金」は通常の奨学金と同じく一人当り四十万円で、合計二百万円の給付金全額を当クラブが負担することとし、皆様からいただきましたご寄付より支出させていただきます。

当クラブは「村橋・フロンティア奨学金」を積極的に支援し、その支援活動を通じて、母校より社会に貢献できる優秀な卒業生を輩出する一助となるべく努めております。

このような支援活動ができますのも会員の皆様からのご寄付があってのことであります。

ご協力をよろしくお願い申し上げます。

訃報

西久保忠臣工学部教授がご逝去されました

神奈川大学の名物教授、西久保忠臣先生が昨年十二月二十六日にご逝去されました。心からご冥福を申し上げたいと思います。

先生は、神奈川大学工学部応用化学科を卒業後民間企業を経て大学に戻られ、専任講師、助教授、教授、そして工学部長、副学長、学校法人理事となられました。

その間、多くの研究活動で高い評価を得三菱化学賞、合成樹脂工業協会学術賞、高分子学会科学功績賞等を受賞され、高分子学会副会長としても学術研究に多大な貢献をされました。研究の成果は特許化されたものが多く、その数は驚異的で、大学の研究者特許取得数第一位に朝日新聞社でランキングされております。まさに産学連携を実践された先生でした。教育研究だけでなく学校経営の面でも積極的な貢献をされ、当フロンティアクラブの産学交流サロンでは第五十回の記念講演をしていただいた事が思い出されます。

体調を崩され心配いたしておりましたが本当に急な六十七歳と言う早い他界で残念でなりません。

研究室の学生の心情、ご家族の心情を思うと言葉がありませんが、唯々ご冥福をお祈り申し上げ、会員の皆様に報告申し上げます。